

北区 生物マップ

浮間・赤羽エリア

浮間・赤羽エリアでみられる 主な植物

オニグルミ (クルミ科)

Juglans ailanthifolia



川沿いなどのやや湿った場所に生育する落葉高木。岩淵水門や北区・子どもの水辺の周囲など、荒川河川敷の水際近くで見られます。秋に緑色の大きな実をつけます。実の中にある種子は食べられます。

アカメヤナギ (ヤナギ科)

Salix chaenomeloides



川沿いの湿った場所に生育する落葉高木。荒川河川敷や赤羽自然観察公園、清水坂公園などで見られます。若葉が赤いことから、赤芽柳の名がつけられました。高さよりも枝張りの方が大きくなる樹形が特徴的です。

ハンノキ (カバノキ科)

Alnus japonica



湿った場所に生育する落葉高木。公園の池の周囲などによく植えられ、赤羽自然観察公園では、自然保護区域で多数見られます。12月から3月、葉が出る前に花が開きます。実は秋に褐色に熟し、翌年の春まで残ります。

ケヤキ (ニレ科)

Zelkova serrata



やや湿ったところを好む落葉高木。ほうき状の樹形が美しく、公園や校庭などによく植えられます。浮間公園では、木が列状に並んでいます。古い歴史でもよく見られます。葉は卵型で表面がざらつきます。

ミゾソバ (タデ科)

Persicaria thunbergii



川沿いや休耕田などの湿った場所に群生する1年草。荒川河川敷の水際や、赤羽自然観察公園の自然保護区域などで見られます。茎には下向き刺が数あり、夏から秋に小さな花が、10数個集まってつきます。

ノイバラ (バラ科)

Rosa multiflora



川沿いや林縁に生育する性の落葉低木。荒川河川敷や赤羽自然観察公園、清水坂公園などで見られます。茎はややつ性で高さ2mほどになり、枝には鋭いトゲがあります。5〜6月に芳香のある白い花を枝先につけます。

アレチウリ (ウリ科)

Sicyos angulatus



河原や荒れ地に多いつる性の1年草。北アメリカ原産の外来種で、北区では荒川河川敷に多く、他の植物を覆ってびっしりと広がっています。茎にはトゲ状の剛毛があり、秋につける実にも、鋭いトゲがあります。

ヤセウツボ (ハマウツボ科)

Orobanche minor



ヨーロッパ、北アメリカ原産の寄生植物。おもにマメ科のシロツメクサに寄生しますが、キク科やセリ科の植物に寄生する場合もあります。北区では荒川の土手に多く、公園の芝生などで見られることもあります。

セイタカアワダチソウ (キク科)

Solidago altissima



河原や荒れ地に多い多年草。北アメリカ原産の外来種で、北区では各地で見られますが荒川河川敷に群生して目立ちます。高さ25mくらいまで、生長するものもありです。茎や葉に短い毛があり、ざらつきます。

カントウタンポポ (キク科)

Taraxacum platycarpum



都市環境では外来種のセイヨウタンポポが普通ですが、浮間地区の荒川土手では在来種のカントウタンポポを見ることが出来ます。花の裏側の総苞片(そうぼうがいへん)という部分が反り返らないのが特徴です。

ヨシ (イネ科)

Phragmites australis



沼や川岸などの湿った場所に生育する多年草。荒川河川敷に群生し、赤羽自然観察公園などでも見ることが出来ます。別名はアシですが、これが「悪」に通ずるため、「良し」と呼ぶようになったといわれています。

カンエンガヤツリ (カヤツリグサ科)

Cyperus exaltatus var. iwasakii



沼や川岸などの湿った場所に生育する多年草。分布が限られた種で、環境省や東京都のレッドリストに掲載されています。北区では、荒川河川敷で見られます。高さ1.5mになる大型のカヤツリグサの一種です。

浮間・赤羽エリアでみられる 主な昆虫類

ウチヤンマ (サナエトンボ科)

Simictinogomphus clavatus



名前に「ヤンマ」とつきますが、サナエトンボの仲間です。腹部の先(第8節)にある半月形の突起が名の由来です。ヨシなどの水生植物の多い大きな池や沼に生息しています。北区では、浮間公園で見られます。

ショウジョウトンボ (トンボ科)

Crocothemis servilia mariannae



成熟したオスは、頭から腹まで真っ赤になりますが、アカトンボの仲間ではありません。成虫は5月から9月にかけて、水生植物が茂る池や沼で見られます。北区では、浮間公園や赤羽自然観察公園で見られます。

コフキトンボ (トンボ科)

Deietia phaon



シオカラトンボをやや縮めた(小さくした)ような感じのトンボです。成虫は5月から9月にかけて平地の池や沼で見られます。北区では、浮間公園で見られます。

チョウトンボ (トンボ科)

Rhyothemis fuliginosa



青紫色の金属光沢を帯びた黒い翅が特徴的なトンボです。成虫は6月から9月下旬頃まで見られ、水生植物が茂った比較的深い池や、流れの緩やかな川を好みます。北区では、浮間公園や荒川で見られます。

オオカマキリ (カマキリ科)

Tenodera aridifolia



体長はオスが80mm程度、メスが90mmを超えることもある大型のカマキリです。緑色型と褐色型があります。成虫は8月から11月に見られます。林縁環境を好み、生垣や公園の植栽などで見ることが出来ます。

オオハサミムシ (オオハサミムシ科)

Labidura riparia



海岸の砂地や河原の荒れ地などの石下や物陰で見られる、大型のハサミムシの仲間です。成虫は4月から10月にかけて見られ、魚の死骸などに集まります。身の危険を感じると体を反転させて威嚇します

トノサマバッタ (バッタ科)

Locusta migratoria



北海道から南西諸島に分布します。体長は40〜60mm程度で、緑色型と褐色型があります。成虫は7月から11月頃まで見られ、イネ科やカタツムリグサ科の植物を食べます。北区では主に、荒川河川敷で見られます。

ツバメシジミ (シジミチョウ科)

Everes argiades hellotia



後翅に細い尾状突起と橙色の斑紋がある、シジミチョウの仲間です。成虫は年に4〜5回出現します。幼虫は、クヌギやハギ類などの花やつぼみを食べます。北区では、赤羽自然観察公園や荒川河川敷で見られます。

浮間・赤羽エリアでみられる 主な鳥類

カワウ (ウ科)

Phalacrocorax carbo



全長82cm。黒い大きな鳥で、背面に茶色いウロコ状の模様があります。繁殖期には頭に白い羽毛が生えます。北区では浮間公園などで1年中見られます。また荒川や新河岸川の上空を群れてよく飛んでいます。

ダイサギ (サギ科)

Egretta alba



全長80〜104cm。シラサギの仲間では最も大きな種類です。黄色い嘴は、繁殖期には黒くなります。北区では1年中見られ、荒川や浮間公園で、食べ物を探したり、休んだりする姿を見ることが出来ます。

アオサギ (サギ科)

Ardea cinerea



全長95cm。灰色の大きなサギです。北区では、荒川や浮間公園で1年中見られます。魚やカエルを捕らえて丸呑みしますが、ネズミを捕らえることもあります。

ヒドリガモ (カモ科)

Anas penelope



全長はオス53cm、メス43cm。オスは赤褐色をした頭が目立ちます。北区には冬鳥として渡来し、浮間公園や荒川などで見ることが出来ます。他のカモ科と異なり、土手や芝生に群れて、よく草をついでいます。

ハシビロガモ (カモ科)

Anas clypeata



全長はオス51cm、メス44cm。大きな嘴が特徴です。北区には冬鳥として10月頃渡来し、浮間公園でよく見られます。水面を泳ぎながら、嘴で水をこすようにして、フランクtonなどの小動物を食べます。

チョウゲンボウ (ハヤブサ科)

Falco tinnunculus



全長はオス33cm、メス38cm。ハトくらい大きさのハヤブサの仲間です。北区では荒川沿いで1年中見られますが、秋から冬に目にする機会が増えます。上空から急降して、バッタなどの小動物を捕らえます。

バン (クイナ科)

Gallinula chloropus



全長32.5cm。全身が黒っぽい水鳥で、嘴の付け根から額の赤色が目立ちます。北区では浮間公園や赤羽自然観察公園で1年中見られ、繁殖もしています。足には水かきがなく、泳ぎはあまりうまくありません。

セグロカモメ (カモメ科)

Larus argentatus



全長61cm。大型のカモメの仲間。黄色い嘴に赤い斑紋があります。北区には冬鳥として渡来し、浮間公園で見ることが出来ます。名の由来は背の黒いカモメですが、実際は背面は明るい灰色です。

カワセミ (カワセミ科)

Alcedo atthis



全長17cm。すんぐりとした体形に長い嘴を持ち、金属光沢のある鮮やかな色の鳥です。北区では荒川や、池のある浮間公園、赤羽自然観察公園などで見られます。水中に飛び込んで、魚を捕らえます。

ヒバリ (ヒバリ科)

Alauda arvensis



全長17cm。スズメよりやや大きい褐色の小鳥で、黒い細かな模様があります。北区には夏鳥として、5月に渡来し、荒川河川敷で見ることが出来ます。ヨシ原で餌の毛を逆立て、「ギョギョ、ギョギョ」と大声でさえずります。

オオヨシキリ (ウグイス科)

Acrocephalus arundinaceus



全長18.5cm。スズメよりやや大きい黄褐色の小鳥です。北区には夏鳥として、5月に渡来し、荒川河川敷で見ることが出来ます。ヨシ原で餌の毛を逆立て、「ギョギョ、ギョギョ」と大声でさえずります。

スズメ (ハタオリドリ科)

Passer montanus



全長14.5cm。最も身近な小鳥ですが、よく見ると込み入った模様をしています。住宅地でも普通に見られ、屋根のすき間などに巣を作りますが、近年巣を減らしているという調査結果が示され、話題になっています。

キアゲハ (アゲハチョウ科)

Papilio machaon hippocrates



翅の地色が黄色いアゲハチョウの仲間です。成虫は年に3〜4回出現します。幼虫は、ニンジンやミツバなどの葉を食べます。明るい草地環境を好みます。北区では、荒川河川敷のほか、市街地の公園でも見られます。

ツマキチョウ (シロチョウ科)

Anthocharis scolymus



前翅の先端がとがり、オスには褐色の斑紋があります。成虫は4月頃に出現します。幼虫は、ハナダイコンやタネツクバナなどのアブラナ科植物を食べます。北区では、荒川河川敷などの草地で見られます。

シロテンハナムグリ (コガネムシ科)

Protaetia orientalis submarmorata



雑木林などに普通に生息します。緑色の光沢のある体に、白い斑紋があります。成虫は7月から9月に出現し、クヌギなどの樹液のほか、熟した果実にも集まります。北区では、赤羽自然観察公園などで見られます。

カナブン (コガネムシ科)

Pseudotorynorhina japonica



平地から低山の雑木林に生息します。体は光沢のある褐色ですが、緑色がかった個体もいます。成虫は7月から8月に見られ、樹液のほか、熟した果実にも集まります。北区では、赤羽自然観察公園で見られます。

浮間・赤羽エリアでみられる 主な両生類・爬虫類・哺乳類

トウキョウダルマガエル (アカガエル科)

Rana porosa porosa



よく似たトノサマガエルとは、斑紋の形が異なります。体色は変異が大きく、緑色のものから濃い茶褐色や灰色を帯びたものもいます。昆虫やカタツムリなどを食べます。北区では、荒川河川敷で見つっています。

ウシガエル (アカガエル科)

Rana catesbeiana



北アメリカ原産のよく知られた外来種です。沼や流れの緩い川には変異が少なく、緑色のものから濃い茶褐色や灰色を帯びたものもいます。昆虫やカタツムリなどを食べます。北区では、浮間公園や赤羽自然観察公園で見られます。

ニホントカゲ (トカゲ科)

Plestiodon japonicus



海岸から山地にまで生息しています。ニホンカナヘビに比べて、体に光沢があり、濡れたように見えます。幼体では尾が鮮やかな青色です。草地や庭先で見られますが、よく石垣などで日光浴をしています。

タヌキ (イヌ科)

Nyctereutes procyonoides viverrinus



山地だけでなく平地にも普通に生息しています。雑食性で、主に果実や昆虫類を食べます。北区では荒川河川敷や赤羽自然観察公園で見つっています。泥の上などで、足跡を見つけることもあります。

北区の公園で拾えるドングリ

スダジイ

Castanopsis cuspidata var. sieboldii

暖地に自生する常緑樹。北区では崖地の林で見られるほか、公園や庭園、社寺によく植えられています。ドングリは長さ1.2〜2cmの細長い卵型。鱗のような殻斗(かくと・帽子と呼ばれる部分)に包まれています。

マテバシイ

Lithocarpus edulis

暖地の海岸近くに自生する常緑樹。北区では公園などによく植えられています。ドングリは長さ1.5〜2.5cmの長だ円形。すんぐりとした大きなドングリです。

シラカシ

Quercus myrsinaefolia

暖地に自生する常緑樹。北区では崖地の林で見られるほか、公園や庭園、校庭などによく植えられています。ドングリは長さ1.5〜1.8cmの卵型。殻斗は輪を積んだような形をしています。

ウバメガシ

Quercus phillyraeoides

暖地の海岸近くに自生する常緑樹。北区では生垣などに使われていますが、あまり多くはありません。ドングリは長さ約2cmのだ円形。先が尖り気味なのが特徴です。

コナラ

Quercus serrata

雑木林でよく見られる落葉樹。北区では、公園や団地の植栽地によく植えられています。ドングリは長さ1.6〜2.2cmの長だ円形。殻斗には細かい鱗片がびっしりと並んでいます。

クヌギ

Quercus acutissima

雑木林でよく見られる落葉樹。やや湿った場所を好みます。北区では、公園や団地の植栽地に植えられています。崖地の林でも見られます。ドングリは長さ2〜2.3cmの球形。殻斗はトゲ状です。